

2019年

第2回

一般社団法人公認心理師の会

研修会 関西開催

2019年

11月24日 日

【午前の部】 10:00～13:00

【午後の部】 14:00～17:00

同志社大学今出川キャンパス良心館 京都府京都市上京区今出川烏丸東入

後援 厚生労働省 文部科学省

公益社団法人日本心理学会 公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

研修会は会員以外の方でも、どなたでも参加いただけます

午  
前  
の  
部

10:00～13:00

◆WS1 「効果が出ない」から抜け出す学級集団への支援のポイント

講師：小関俊祐（桜美林大学）

◆WS2 ステップケア（段階的予防介入）モデルで認知症のBPSDを低減する：  
その文脈における心理職の具体的な役割とは何か

講師：武藤 崇（同志社大学）

◆WS3 矯正処遇における心理学的アプローチとエビデンス

講師：浦田 洋（甲子園大学）

13:15～13:45 理事長講演（同会場にて実施。理事長講演は無料・事前予約不要。どなたでも参加可能）

午  
後  
の  
部

14:00～17:00

◆WS4 「痛み」をラディカルに捉え直すことではじまる

慢性疼痛への心理・社会的アプローチ：その基礎と実際

講師：武藤 崇（同志社大学）・酒井美枝（名古屋市立大学）

◆WS5 ストレスの“WAVE”にうまく乗るための認知行動療法

講師：金井嘉宏（東北学院大学）

◆WS6 当事者と共同で構築するエビデンスに基づくひきこもりの心理的支援

講師：境 泉洋（宮崎大学）

【参加費】 1ワークショップにつき 会員4,000円 非会員6,000円

公認心理師以外の方も参加を歓迎いたします

事前予約が必要です 申し込みはホームページをごらんください

ご予約  
お問い合わせ

一般社団法人 公認心理師の会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル

公益社団法人日本心理学会 事務局内

ホームページ <https://cpp-network.com/index.html>



## WS1 「効果が出ない」から抜け出す学級集団への支援のポイント 講師：小関俊祐 (桜美林大学)

公認心理師に求められる能力として、心の健康の保持増進が挙げられています。これを実現するための方法の1つとして、学級集団を対象とした心理的支援の提供があります。これは、スクールカウンセラーの業務にも位置づけられており、さまざまな研修会が開催されています。しかしながら、実際に集団への支援を実施しても、「なかなか効果が出ない」という声を耳にすることが多いのも現状です。本ワークショップでは、集団への支援を行う際のアセスメントの視点、実践上の工夫、効果を日常に般化させるためのポイントについて、ご紹介いたします。想定している支援対象は、小学校、中学校、高校の学級集団、あるいは学年集団です。主に社会的スキル訓練、問題解決訓練の実施手順について紹介しつつ、受講者の先生方には、特に「一次予防」の視点から学級集団への支援を提供するための知識や技能を習得していただくことを目標とします。

## WS2 ステップケア（段階的予防介入）モデルで認知症のBPSDを低減する：その文脈における心理職の具体的な役割とは何か

講師：武藤崇 (同志社大学)

本研修の内容は、1) 「バイオ・サイコ・ソーシャル」モデルから捉える認知症の行動・心理症状 (behavioral and psychological symptom of dementia; BPSD)、2) BPSD に対するエビデンスの確認、3) BPSD に対する機能アセスメント (functional assessment) とそれに基づく支援、4) BPSD に悩まされる家族に対する支援モデル、5) ステップケア (段階的予防介入) モデルと各ステップにおける心理援助職の役割の整理、6) 事例紹介、7) 質疑応答、という6部から構成される予定である (なお、1~4が前半、5~7が後半の予定)。

## WS3 矯正処遇における心理学的アプローチとエビデンス 講師：浦田洋 (甲子園大学)

少年・成人を問わず、非行・犯罪を犯した者の再犯防止は、我が国の喫緊の課題である。このように重要で、かつ、取組みがいがあるのが矯正処遇であるが、対象者の特徴等によりそれを進めるには多様な困難さが伴う。このような状況で、担当者が意欲を持って処遇に取組み続けるには、自らの働きかけが依って立つ理論等が明確で、かつ、実践による効果を十分実感できると認識することが必要であり、本研修は係る認識を高める一助となるものと位置付けられる。

具体的には、少年院や刑務所での処遇の背景にある、少年鑑別所や刑務所の調査センターでのアセスメントについてその概要を説明し、かつ、それらをどう処遇に活用しているかを述べる。なお、アセスメントについては、投映法や作業検査が、司法・矯正領域で独自の発展を遂げていることについても触れたい。

## WS4 「痛み」をラディカルに捉え直すことではじまる慢性疼痛への心理・社会的アプローチ：その基礎と実際

講師：武藤崇 (同志社大学)・酒井美枝 (名古屋市立大学)

慢性疼痛には、生物学的要因に加え、心理的要因や社会的要因が複雑に関連していると考えられています。そのため、慢性疼痛診療においては、生物-心理-社会モデルにもとづき、多職種による「多角的な評価」とそれに基づく「集学的治療」を行うことが望ましいとされています。本研修では、慢性疼痛診療の現場で実際に行われている「痛み」に対する多角的な評価 (アセスメント) を概観しながら、多職種連携における心理師の役割について検討します。さらに、心理・社会的トリートメントの具体的な手続きについて、アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) を中心に解説します。現場でよく出会うであろう複数の架空事例をもとにしながら、アセスメントとトリートメントの実際を紹介したいと思います。

本研修の内容は、1) 国際疼痛学会 (IASP) による「痛み」の定義についての検討、2) 痛みに対する心理・社会的トリートメント・モデルの変遷、3) 痛みに対する心理・社会的トリートメントのエビデンスの確認、4) 質疑応答、という4部から構成される予定である。1) IASP による「痛み」の定義についての検討では、一般的な「痛み」に関する認識を再検証し、心理・社会的トリートメントの重要性を再認識する。2) 痛みに対する心理・社会的トリートメント・モデルの変遷では、1960年代~現代までの主要な科学的なトリートメント・モデルを年代順に整理し、各モデルの差異やその中核的な特徴を整理する。3) 痛みに対する心理・社会的トリートメントのエビデンスの確認では、現時点におけるエビデンスの概要と、その注意点について把握する。

## WS5 ストレスの“WAVE”にうまく乗るための認知行動療法 講師：金井嘉宏 (東北学院大学)

「キラーストレス」という言葉とともに「ストレスは身体に悪影響を及ぼす」という考えが強調されています。しかしながら、ストレスに関する最近の研究では「ストレスは悪者」と考えること自体が問題であり、ストレスに対するとらえ方や行動を変えることでストレスを受け入れて生活しやすくすることもできます。本講座では、認知行動療法の観点からストレスをとらえ、対応のコツを解説します。適切な環境調整が必要な場合はもちろんありますが、ポイントは、ストレス反応を「減らそうとしない」ことです。つまり、ストレスを感じる出来事に直面したときに生じる感情の「波」をなくそうとしたり減らそうとせずに、その「波にうまく乗る」ことです。その結果として、ストレスが和らぎます。それを達成するために心理教育で伝える内容や、マインドフルネスなどの技法、ストレスが強まるときに経験しやすい反すう (グルグル思考) への対応方法、向社会的な行動の効果などについて情報提供します。ストレス反応の「波」を客観的に観察しながらうまく乗るツールになるのが認知行動療法です。

## WS6 当事者と共同で構築するエビデンスに基づくひきこもりの心理的支援 講師：境泉洋 (宮崎大学)

本ワークショップでは、近年のひきこもりの実態とともに、そうした事例に対する認知行動療法を応用した支援について紹介します。

まず、ひきこもりの現状に関する最新のデータを紹介し、ひきこもり取り巻く現状について解説します。具体的には、2019年3月に内閣府が公表した40歳以上のひきこもりに関する調査や諸外国におけるひきこもりに関する研究を紹介いたします。その後、ひきこもり状態にある人とその家族が経る心理のプロセスについて、行動論的視点からの研究を踏まえながら解説していきます。

こうした基礎知識を踏まえて、認知行動療法を応用した支援の実施手順を解説していきます。具体的には、本邦でもエビデンスが蓄積されている家族支援においてCRAFTを応用した支援を紹介していきます。また、当事者支援に対する認知行動療法の応用可能性、さらには当事者視点の支援を行動論的にどう理解していくかについても解説していきます。